

# 8年余の歴史に幕

## 京都

京大の理学部植物園

(吉田キャンパス内)

で開かれてきた市民向けの観察会が二十一日、八年余の歴史を終えた。活動を支えるスタッフが減り、継続できなくなったため、参加者からは「楽しい企画なのに惜しい」との声も聞かれた。

植物園は一九三三年に創設され、約一・八鉢に樹木五百種千本ほどが茂る。観察会は、樹木の伐採問題などを契機に、有志の教職員からなる「京大植物園を考える会」が始めた。教員らが講師になり、花や昆虫、キノコ類など毎月違ったテ

## スタッフ不足

マで約一時間、園内の豊かな自然を見て回った。

この日は記念すべき百回目で、市民ら約四十人が参加。初回から関わる元非常勤職員の影山貴子さん(六六)が「多くの方に植物園のことを知ってもらいた

## 継続が困難に

いと月に一度続けてきました。スタッフが高齢化してきたので百回で終了しますが、これからも植物園を見守ってほしい」と語り掛けると、温かい拍手が送られた。

チャンチンモドキやカエデの仲間などを題材に、最終回のガイドをした理学部OBで大阪市立自然史博物館研究員の今村彰生さん(三〇)は「長期的、短期的な生き物の変化を観察できる貴重な場所」と話す。別の職員らは「形を変え、年に数回でも観察会を開けるようにしていきたい」と話している。

(芦原千晶)



約40人の市民が参加した最終回の京大植物園観察会。京都市左京区で